

## ○12番（吉川里己君）〔登壇〕

（全般モニター使用）新政策研究クラブの吉川でございます。ただいまから一般質問を始めたいと思っております。今回は7項目について通告をしております。よろしくお願いいたします。

ことしの夏は非常に暑かったですね。そしてさまざまな、皆さん方、思い出、ドラマがあったというふうに思っております。ことしの夏、夏の甲子園大会ですね。有田工業高校が114年ぶりに初出場をされたというふうなことで、私も有田工業高校のOBとしてですね、開会式、開幕試合、甲子園のほうに足を運んで応援をしてきたところでございます。まあ、この甲子園球場、開幕試合というふうなこともあってですね、超満員でありました。もう切符がとれないというふうな状態で、本当に全国各地からですね、自分のふるさとを求めて、自分のふるさとを探しにですね、この高校球児の頑張りに、応援に来られた方ばかりであったわけでありましてけれども、まあその中で、先ほども話ありましたけれども、市内の生徒が活躍してくれたということで、武雄北中学校出身の古川投手、それから浦郷内野手ですね、中軸で頑張ってくださいました。まあ、この甲子園出場に当たってはですね、この御両人の活躍といったものは、これまでの努力といったものは非常にあるというふうに思います。

それともう一つは、やはりこういった選手をですね、小学生時代、あるいは中学生時代から支えてこられた指導者の皆さん、そしてまた地域の皆さん、あるいは学校の先生、親御さん、こういった方々、そしてまた、この行政機関もそうであります。こういった皆さん方の支えがあって、彼らがこういった大舞台で活躍してくれたというふうに思っております。

まあそういう中ですね、樋渡市長も3期目を今度目指すというふうなことでありますけれども、こういったスポーツ選手、こういったスポーツ、あるいは文化ですね、芸術面、そしてまた教育面において、今後行政としてどういった方針でサポートをされていこうと思われているのか、まあ、この甲子園大会を通じてお願いをしたいというふうに思います。

## ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

私もまた有工の頑張りには多くのことを学びました。まず、佐賀県の予選のときは、すべて1点差で際どい勝利をおさめたということ。そして1回戦のときは、はっきり言って、もう負けたと思いました。あーあって思ったらですね、もう1回チャンネルつけて見たら、なんか同点になって逆転しよったということで、この子たちっていうのは別に野球エリートじゃないんですよ。ですので普通の子たちが、さっき議員がおっしゃったように、指導者であったりとか、さまざまな環境の中で伸びていったと。この古川投手は、もともと善行表彰を受けるぐらいのお子さんだったんですね。それで、もともと有工に入ったときは、ピッチャーとして3番手だったということを聞きました、指導者から。しかし、何でこう日本高校

球界をある意味代表するような投手になったかという、その指導者の方が、とにかく下半身を、上半身は物すごい力があつただけけれども、下半身が弱いということで、とにかく下半身の強化に努めなさいということで、古川投手はそれを素直に取り入れて、実際会ったときも物すごい下半身でしたもんね。ですので、そういったいろんな要素がかみ合わさった。だから、繰り返しになりますけど、何もこの子たちは最初からエリートの教育を受けてないんですよ。普通の一般の教育を受けて、あるいは指導を受けて、ここまでなったというところに大きなヒントがあると思っています。ですので、3期目は教育に力を入れていくという中で、当然その中にはスポーツも入ります。それと、もう一つ大事なものは、やっぱり私自身は不登校だったんですけども、やっぱりその子どもたちに応じた授業なり、スポーツの指導っていうのがあるろうというように思っていますので、今、教育委員会すごく頑張っています。佐賀県内でも非常に評価が実は高いんですけども、さらに、この度合いからこうきめ細かくね、子どもたちにこう接するようなね、教育があつて、一律じゃなくて、そういうことをぜひ望んでいきたいし、私たちはそういう環境をきちんと整えてまいりたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

有工の武雄市出身の2人が、市長さんと対話をされてるところを見ましてですね、すごいなと思ったのがありました。私は別の面からお話したいんですが、あれだけの力を持って、エースで4番でありながらですね、非常に謙虚なもの言い方をされたんですね。武内小学校がですね、あの頃ちょうど、先ほど話題になりましたけれども、コミュニケーション力、対話力とかいうことを力を入れて指導をされてたんですね。監督も、この子たちは非常にそういう中で、非常に自分たちのチームのコミュニケーションが、交流関係が非常によかったということをお話されてですね、それが原因とは言いませんけれども、少なからずそういう学びというのも小さいときは生きてるんじゃないかなというのを聞かせてもらいながらですね——したところでした。後のインタビューなんかもそういう感じを非常に強く持ちましてですね、勉強になりました。

いずれにしても、若者ですね、何をしでかすかわからないようなたくましさですね、それからスポーツのよさ、そして恐らく本当にすべてを忘れ去ってですね、武雄市民もちろん、佐賀県民もですね、本当に我が事のようにして応援できるそのスポーツのよさというのを改めて感じたところでありました。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

本当にチームワークですね。チーム有工として、一生懸命頑張ってくれたというふうに思っております。

3期目、樋渡市長、迎えられるわけでありますけれども（発言する者あり）チーム武雄としてですね、今後は教育に頑張っていくと。先ほどもスポーツ面にも力を入れていきたいというふうなことでございました。特に、教育についてはiPadを切り口にね、道具として教育をさらに革新を図っていくということでございますけれども、具体的にこのスポーツなり、文化、芸術、こういった部分についてもね、やはり何かの切り口をつくっていただいでですね、ぜひ前に進めていただきたいなというふうに思っております。

こういうふうですね、非常に暑い夏だったわけでありますけれども、この小中学校の教育環境について、これは昨年の6月議会で質問させていただきましても、非常に高温化が進んでいるということで、これは32年ほど前ですね、1981年のグラフでありますけれども、最高気温が36度。2010年になりますと、37度。そしてことしのグラフを載せますと、38度台が3日ほど続いております。平均してもですね、約30年前からすれば、3度前後上がってきている状況にあるわけですね。一方で8月の末になりますと、台風の影響、あるいは秋雨前線の停滞によって、雨が続くと。そしてまた、さかのぼりますと7月は2週間ほど、例年より早かったですね、梅雨明けが。7月8日に梅雨明けをしたというふうなことでありましたけれども、非常に高温期が続いたというふうな状況で――中学校の普通教室ですね、冷暖房完備をとということで、昨年の6月、追加議案で出していただきまして、予算措置をしていただいて――高校入試を迎える中学校3年生の教室にまず設置をしていただきました。非常にこれは生徒さんからも、学校の先生からもですね、評価をいただいております。非常にやはり、授業に集中ができるというふうなこと、それから夏ですね、学校での学習会、こういったものも積極的に今やられておりますので、そういったときにもですね、快適に勉強ができたというふうなことであります。

2年生以下についてもですね、順次展開をしていくというふうなことで伺っておりましたけれども、今後の計画についてどのようになっているのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先行して中学3年生の、まず武雄中学校に入れて、あと中学校3年生は全校に入れたということで、非常に学習効率が高まったということをおっしゃっていますし、何よりも体調管理が、こちらの画面にも書いてありますけれども、容易になったということからして、ちょっと教育委員会とこれは十分協議をした結果なんですけれども、来年度に3年生に合わせて、中学校一、二年生の普通教室、特別支援教室すべてを整備、冷房を入れたいと思います。

概算工事費で、中学校34教室で、4,100万円の追加、これはランニングコストで、これ中

学校3年生まであわせると、年間700万円の増になります。しかし、やはり教育に力を入れていくという観点から、タブレットも大事なんですけれども、もっと大事なのは、恐らく子どもたちが今、冷房に、冷暖房にね、体がやっばなれてる、これいい悪いは別にして、それは仕方がないところですので、その自宅等の延長線で、教室っていうのはあってしかるべきだということ。それと議員からも御指摘がありましたように、異常な高温状況の中で、学習っていうのは非常に今辛い状況になっているという観点から、私どもといたしましては、早い段階で、これちょっと議会に御相談することになります。これ巨額の予算になりますので、議会に最終的には御判断をいただくということになりますけれども、私どもの考えとしては、早い段階で予算を提出をいたしまして、全中学校の全教室に——冷房ですよ、冷房の施設を入れたいと、このように考えております。いずれにしてもこれについては、巨額の予算を伴う話になりますので、議会でも十分、御論議をしていただければありがたいと、かように考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

来年と再来年に分けて、2カ年間で実施をしていただくということですね。ぜひですね、その設置が終わったら……（発言する者あり）1年間で、来年の1年間でですね。ありがとうございます。1年間で設置をしていただくということでもあります。小学校のほうもまだ残っておりますのでですね、ぜひそちらのほうも、再来年以降計画をぜひ立てていただきたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これ本来ならばね、小学校、ちょっと体がね、十分、なかなか——状態が達してない、小学校に入れるべきだっていう議論も——特にドクターとか医療関係者そっちのほうが強いですよ。ですがこれ全部一遍に入れるっていうのになると、タブレットの関係はちょっと別においてもね、それはさらに予算を伴う話にやっばなりますし、ほかにも——例えば安全安心の、例えば道路だったり、いろんなその改修の話も向かう話になりますので、ここはちょっと申し訳ないんですけども、ちょっと私どもで教育委員会と協議をした結果、優先順位として、まず中学校3年生をやって、中学校1、2年生を行うと。それ以降に、なるべく私どもの気持ちとしては早い段階で、小学校も入れていきたいというふうには思っております。ですので、私は確実にお約束をする。これは最終的に議会が議決をしていただく話になりますけれども、来年度の夏場、少なくとも中学校全教室で冷房が完備をしていると。これはぜひ、これは達成をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして選挙事務の効率化ということで、これは従来のですね、投票入場券のはがきであります。有権者 1 人に 1 枚ずつ送ってあったはがきでありますけれども、これを今回の夏の参議院選挙から、封書式の世帯単位の封書にですね、変えていただいたということで、これ、実際にやっていただいてどういった成果があったのか、まずお伺ひしたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

（モニター使用）お答えいたします。投票所の入場券の変更による効果ということですが、今モニターに示しております、従来、1 人 1 枚のはがきで入場券を送付しておりました。今回から 1 世帯 1 枚。1 枚につき最高 6 名ということの連記式で送付をしております。そのことで、送付枚数がですね、少なくなっております。そういうことで、郵送料の削減効果が出ております。今モニターに示しておりますとおり、前回平成 22 年度参議院では 174 万 5,000 円。今回の参議院では 89 万 4,000 円ということで、85 万 1,000 円の削減、49%の減というふうになっております。それと、世帯分をまとめて送付しますので、家族の分は来ているけれども、自分のは来ていないという、そういう 2 つの問い合わせは減少しております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

今回この封書式の世帯単位のものにしていただいて、1 点だけちょっと課題を申し上げさせていただきますけれども、この封筒の表ですね、有権者の皆さんから、複数人から話があったんですけども、医療費の明細書と間違えて捨ててしまいましたといったのが 1 件ですね。それと、医療費の明細かと思って、そのまんま開封せずに置いといたといった方がいらっしゃいました。そういった課題がございますのでですね、ぜひこれについては、以前からモデルでちょっと出しておったわけでありましてけれども、こういった色を使うとかね、それから必要な文字数を最小限にして文字を大きくして視認性を高める、こういった改善が今後必要だというふうに思ひます。来年の 4 月には市長選挙が行われる、市議会議員選挙も行われます。ぜひそれに間に合わせる形でですね、そういったところの改善お願ひをしておきたいと思ひます。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長（「ピンク」と呼ぶ者あり）

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えいたします。

今後、投票入場券であるということが一目でわかるように、さっき議員さんも言われたように、文字の拡大、大きさ、そして色合いですね、選挙入場券そのものの色合い、その辺も含めて、対応していきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしく願いいたします。

続きましてですね、これも選挙の事務でありますけども、今回の参議院選挙から、IT化を推進をしていただきました。

期日前投票でございますけども、山内支所、武雄市役所、北方支所、ここをネットワークでつないでいただきましてですね、先ほどの案内には、バーコードをつけていただいて、電算処理をするということですね、まあ、待ち時間の短縮とか、二重投票ミスの防止、あるいは統計処理の時間の短縮、こういった効果が見込まれるんじゃないかということで、以前の議会でも話をしていたわけでありまして、この導入実績について、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

（モニター使用）お答えいたします。

システム導入効果としましては、今、モニターに出しております。大きく3つあったと思います。1つが二重投票の防止ということで、これ、期日前投票所をオンライン回線で結びまして、データを一元化しております。そのようなことで、二重投票ができないというふうなことが可能となったと思います。あと一つは、その選挙人名簿を統一化することで、市内3カ所の期日前投票所がありますけれども、お住まいの区域に関係なく、どこでも投票ができるという投票が可能となっております。2つ目ですけれども、期日前投票の受付、名簿対照係の事務負担の軽減、それに伴う、有権者の待ち時間の短縮でございます。入場券についておりますバーコード、これを読みますので、瞬時に受付と名簿対照ができると。そのようなことにより、より迅速な対応が可能になったということです。また3つ目の各種統計の自動計算による事務軽減の効果と合わせまして、今、グラフで示しております期日前投票所の事務従事者の削減が可能になったということです。期日前投票期間が16日ありますけれども、前回147名、これが今回103名、44人の削減で対応ができたということです。人件費で76万ほどの節減の効果が出ております。導入の効果としては以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

まあ今後ですね、今回期日前投票でしていただきましたので、ぜひ、この当日投票もですね、そこまで踏み込んでやっていただきたいなというふうに思います。各町にある投票所と、ホストコンピュータを結んでですね、瞬時にこういった処理をしていただくというふうなことで、また大幅な削減になるというふうに思いますので、こういったこともですね、課題として、今後取り組んでいただきたいというふうに思っております。

それから続きまして、公共施設のアセットマネジメント。まあこれは、先ほども話あっておりましたけれども、文化会館ですね。これも昭和 40 年代につくられたということで、老朽化をしております。改修費がですね、今後 9,000 万。26 年度が 9,000 万。27 年度が 1 億 6,000 万。28 年度が 1 億 3,000 万。まあ、その後も 6,000 万近く毎年かかると。それと白岩体育館ですね。これも老朽化をしている、非常に手狭な体育館になっているというふうなことで、先の議会では、樋渡市長のほう、あわせて総合体育館をつくりたいという思いを持っているということでございました。まあそのほかもですね、いろいろございます。庁舎、あるいは北方山内のスポーツセンターですね、それから市営住宅、学校。このほかにもですね、市の施設として小さいものまで入れるとですね、200 くらいの施設に分けられるみたいですよ。

これは、建物だけなんですけど、これ以外にも橋梁とか道路、こういったものも非常に多いですね。橋梁も数百の橋が武雄市内あります。まあそういう状況の中で、今後、建設ラッシュになるというふうなことで、また人口の推計を見るとですね、25 年後には 1 万人武雄市の人口減るといふ部分と、財源的にも、交付税ですね。これが 1 本算定になることによって、約 16 億円ほど減る。そしてまた年間の歳入総額としてもですね、55 億円ほど減るといふようなことが、こう見込まれております。まあそういう状況の中で、やはりこの公共施設をどう今後改築をかけていくのか、長寿命化をかけていくのかといったことが、アセットマネジメントであるわけでありましてけれども、このアセットマネジメントについて、どのような方針を持って今後どのようなスケジュールでやっていこうとされているのか、その辺がまだ見えてきておりませんので、その辺を答弁をいただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず喫緊の話からすると、まずこの庁舎が、もう耐震のその基準から大きくかけ離れて、低い、悪いという観点から、庁舎の建てかえがまず必要だと。場所はともかくとして、その建てかえが絶対に必要だということを思っています。その次に、半歩遅れて、文化会館の大ホール。維持費ばかり、こうかかります。それと白岩の体育館。これは、先の議会で統合

した上でやると。これについては、ぜひオリンピックにひっかきたいと思うんですね。できれば県のお力も借りたいと思っていて、前のオリンピック、前だったかな、ごめんなさい——世界的な大会のときに、実は武雄を合宿にどうかっていう話あったんですね。いやこれロンドンオリンピックのときか、ロンドンオリンピックのときに、ある競技で、実はそのいいところまで来てたんですよ。合宿ってどれぐらいですかって言ったら、1カ月っていうことを聞いてて、結局それは選に漏れたんですけども、恐らくその東京オリンピックってなったときは、ロンドンオリンピックですらそうだったんですね。となると、あるいは合宿所であるとか、まあいろんな、その競技の練習場であるとかっていうのは、必ずこれは整備しておく必要があると。要するに、これはホークスと違って市民も使えて、かつ、そういうふうにオリンピックに実際出られる超一流の選手たちが集う場からすると、前もってこれを前倒してでもね、この少なくとも体育館、体育館競技っていっぱいあるじゃないですか。柔道だってそうだし、ね、いろんなありますので、それに対応できるように、是非したいと思っています。ただそうは言っても、これだけここにお示しされているとおりの人口が1万人減って、歳入55億円減っていくという厳然たる事実がありますので、これぜひ議会で一回ちょっと議論をしてほしいんですよ。議会で議論をして、優先順位で、私の優先順位はまず庁舎。これ市民が一番使いますので、庁舎。その次、その半歩遅れて、スポーツ施設である体育館と、先ほど申し上げた——体育館と文化会館ですよ。それに並行して、道路、橋、橋梁の維持補修っていうふうにありますけれども、これは議会でよくもんでもらって、これについてはアセットマネジメントの計画をつくる必要があると思っています。これは計画どおりにいくかどうかは、ちょっと別にしてもね、これは市民にお示しをする必要があるというふうに認識をしておりますので、その議論は、もう、まあオリンピックが決まったっていうことも含めて、もう早めにちょっとやっていきたいと思っていますし、私どももたたき台としてね、その案をなるべく早く議会、並びに市民の皆さんたちに提示をしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

まあ、先ほども言いましたようにですね、二百数十の建物、あるいは橋梁も含めていきますと、500ぐらいあるわけですね。その辺の必要な財源なり、スケジュールですね、そういったものを、やはりたたき台を早く出していただかないとですね、議論にならないんですよ。まあどこまで調査されてるのか、まあ、わかりませんが、そこを早くスピードを持って進めていただきたいというふうに思っております。また、質問をさせていただきます。

次に、主要道路の改良と渋滞緩和ということで、質問をさせていただきます。これは、国道34号と県道北方朝日線ですね。ここが交わるところでございます。佐賀ダイハツさん、そ



して向かい側にはレストランのふちがみさんがあるところでもありますけども、こちらのほうがインター方面ですね。そして工業団地方面というふうなことで、ここ一、二年ですね、非常にこの渋滞が激しくなっております。北方の皆さん、そして朝日の皆さんはもちろんでありますけども、多くの皆さんがここを利用されております。黒岩議員さんもいつも言われるように、ここは扇の要になる交差点だというふうなことであります。そういうことでですね、この渋滞状況も見てみますと、まあ、毎日のように、この——これは高橋方面から写した写真でありますけども、ドラッグストア前、ひどいときは高橋駅ぐらいまでつながるとですね。そして、これは二又交差点から高速のインター入り口のところまで渋滞をしております。そして、これが西杵団地前のところまでつながっております。まあ、このようですね非常に渋滞が激しくなっているというふうに思っておりますけども、担当部局としてこの渋滞についてどのように、こう認識をされてるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

まず渋滞とはですね、一般道路で、走行速度が 20 キロ以下で走行した場合、議員指摘の場合で、議員指摘の工業団地入り口付近の交差点におきましてはですね、高速道路のインターチェンジから、県道武雄多久線の入り口の交差点まで、これ、1.2 キロありますけれども、これは、3.6 分以上かかったら、渋滞と言えると、いうふうに言えます。そしてインター交差点、それから工業団地入り口交差点、大崎交差点はですね、佐賀県交通渋滞対策協議会の中でも佐賀県の主要渋滞箇所区間として位置づけられておまして、当然市のほうでも、渋滞箇所として認識をしているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

ここもですね、やはり、先ほど話にもありましたけれども、北方バイパス、あるいは、498 ですね。こういった部分のめどが立たない限り、ここもなかなか解消には向かないんですね。まあ、そういうことですね、今の状況をこう見てみますと、この写真に車の動きをのせてみますと、これは工業団地方面から、国道 34 号線に乗り入れるときでありますけども、先頭車両だけ右折、左折レーンがあるんですけども、3 台目から以降は 1 車線になってるんですね。信号が青になって赤になるまでの時間帯に、ここを通り抜ける車の量が限られておりますので、何度もここで一旦停止をしなければならぬというふうな状況に、今なってるんですね。そしてもう一つは、佐賀ダイハツさんの前のところ。ここも信号でとまったときに、ずっと渋滞します。工業団地方面に行く部分については、信号がなくて一旦停止で通過できるようにしておるんですけども、ここが渋滞しているために、こういった車、赤い車で

すね。工業団地方面に行きたくても行けないような、今状態にあるわけでありませぬ。

まあそういうことですね、これは北方町さんと朝日町——密接につながっておりますので、北方のですね、後川前区長さん、この区長さんの発案でお聞きしたんですけれども、このですね、工業団地方面から来るところについて、左折レーンと右折レーンを明確に区分してあることによって、信号が青のときに、赤になるまでですね、今まで、従来よりも倍の車がこの34号線に乗り入れることができるということで、ここの渋滞緩和になりますよというふうなことで、これはなるほどなあということですね、後川前区長さんの意見を聞かせていただいたわけでありませぬ。それともう一つは、佐賀ダイハツさんの前のところですね。ここも、佐賀ダイハツさんの入り口のところまでですね、左折レーンを延長していくことによって——あ、ごめんなさい——信号が赤でも、伊万里方面、工業団地方面に行くことができるということで、渋滞緩和につながるのではないかとというふうなことでありませぬけれども、ぜひここを、水路がダイハツさんの前、こう通っておりますね。ここをうまく利用して、ここの右折ライン、そして左折ラインの拡幅工事をですね、まず応急的にですね、この交差点改良という形で進めるべきだというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

交差点の車線数が交通の容量に大きく影響をします。そういうことで、工業団地入り口交差点は国道からの左折、議員指摘のとおりですね、左折レーンをつくる。また県道からの国道への右折、左折のレーンをつくるというふうなことによってですね、大きく、渋滞の解消につながるものと思っております。国道34号はですね、国あるいは——県道北方朝日線は県の管理となつとりますので、今後要望していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

まあ、今後要望していただくということでありませぬので、もう時間はございませんので、まあ、市長が言われるのは、スピードは最大の付加価値だということでありませぬので、ぜひこの渋滞緩和に向けてですね、動きをとっていただきたいというふうに思います。よろしくお祈りいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これ千載一遇のチャンスなんです。実は、橘町のエースの西村平さんが交通部長であらせられますので、その間に——それと非常に武雄に造詣の深い副島さんがその上の

また本部長でありますので、こういう人的ネットワークを生かしながらね、これについては早く進めていきたいと思ひますし、やっぱりこの渋滞が武雄の活力、北方の活力をそいでいるということは、深く私も認識してますので、市の予算の支出についても——ためらうことなく、もし必要とあれば十分に出していきたいと、このように思ひます。県ばかりに任せらるんではなくてね、これはしていきたいと思ひてますので、県と力を合わせて、早くここについては解決を図ってきたいというふうに思ひます。非常に現実的な案をいただいて、これは後川前区長さんの案だと拝聴しましたけれども、あわせて感謝を申し上げたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ここ水路になっておりますのでですね、用地交渉といった部分もほとんど、必要ないというふうなことでありますので、今ボックスを埋めるだけでですね——もできますので、ここについては、早急に動きをかけていただきたいというふうに思ひております。よろしくお願ひします。

それと、これ——食のですね、自立支援事業が武雄市ございますけれども、その配食サービスについて質問をさせていただきたいというふうに思ひます。この配食サービスでございますけれども、高齢者や介護が必要な人へ、食事を定期的に宅配し、健康増進を図ることというふうな目的があるわけでありますけれども、現在、この配食サービスを利用されている皆さんの利用状況等について、まずお伺ひをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

市の配食サービスの事業につきましては、今議員がおっしゃったとおり、そういうふうな形の中で、独居の高齢者とか高齢者世帯のみとか、あとは障がい者世帯のみとかいう方を対象に希望される方につきましては、配食サービスをいたしてあります。

ことしの7月時点で、161名の方に7月で2,847食ということで、多い人については週7日ですね。少ない人では週1日ということで、配食しながらサービスをいたしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

この配食サービスでありますけれども、今、市のほうでいろんなこう規制をかけられてですね、サービス低下になっている部分があるんじゃないかということで、きょう指摘をさせ

ていただきたいと思います。それはですね——これまでは、エリア全域を1社で、この配食をしていただいていたんですけども、これが今年の5月から新しく新規参入されたということで、2社になったんですね。2社になったことによって、エリア分けをこうされたわけがあります。まあ、そこでどういった問題が出てくるかと言いますと、どうしても2社ありますので、食材の品物の種類だとかですね、あるいは、その量、それから味、味付けですね、こういったものがどうしても会社によって異なっていく。まあこれは、いい部分もあるかもわかりませんが、悪い部分もあるんですね。まあ、そういったことで、ことしの5月からこういったエリア分けをして運用をされている。まあ、そういった中でですね、利用をされている皆さんからの問い合わせとか、そういったものについては、今どのような形で上がってきてますか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

配食サービスのエリアについて若干ちょっと修正をさせていただきたいと思いますが、4月まではですね、2社で実施しております、北方地域と北方地域以外。それとことしの5月からですね、北方町以外については、今議員お示しのとおり、1社あったところが2社ということで実施をいたしております。

〔12番「北方町以外でいいです」〕

はい。

〔12番「北方は外していい」〕

はい。そういうことで5月からですね、事業所が変わったということによりまして——いろんな御意見がっております。一つは、やはり今までなれてきた味からですね、まあちょっと変わったということで、味の中身について、いろんな問い合わせとか要望があるところがございます。

それともう一つは、どうしてもですね、もともとの業者の味になれているとか、そういうふうな部分につきまして、元に戻してほしいとか、そういう意見があるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

今のお話では、元の会社の事業所ですね、弁当のほうの方がよかったとかいっただいふような意見が、こうあるんですね。そういう状況の中で、やはりこの今のエリア分けといったものを、ぜひですね、1つのエリアにして、A社からもB社からもどちらからもお弁当をとることができるというふうにしてですね、やはり利用者本位で、利用者の方が選べる、こういう形に

すべきだというふうに思うんですね。健常者だったらいいんですけど、高齢者の方、そしてまた体が不自由な方がですね、本当にこれを利用してあります。先ほどこう話がありましたけども、1週間に7日間このお弁当を頼まれている方もいらっしゃる。ということは、年間365日、同じ事業所のお弁当を食べられているんですよ。例えばね、エリア1に住む方がB社のものが自分には口に合うと、体にいいと。なぜかというとなB社のほうが野菜が多いもんねとか、あるいは魚が多いとか、そういった部分もあるんですよ。ですからぜひ、この、選択できるように私はすべきだというふうに思っております。

デイサービスにしてもそうなんです。ケアマネージャーさん方がおられて、こういったエリア分けなんてされてませんよね。全体の中で、じゃあどこにしましょうかということで、利用者の方のやはり希望がかなえられるようになってくる。ぜひですね、この福祉サービスがあります。先ほどの目的のところに健康維持を図るというふうなことが大きな目的にある中でですね、先ほどのような365日利用されている方が、この配食サービスによって、やはりストレスになるような事業であってはならないというふうに思いますので、ぜひここはね、エリア分けを撤廃をしていただきたい、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁書にはエリア分けは撤廃しないって書いてありますけど、このやりとりを踏まえると、やはりこれはちょっと利用者の目線からすると、質問をお聞きしながら、僕は撤廃すべきだと思います。

ただし、これは契約でA社についてはこの地点というのは契約でありますので、この契約違反に私どもがなりかねませんので、これは事業者の皆さんと一回まず協議をします。それと、本当に――先ほど議員から御指摘がありましたけれども、実際の御利用者の方々の意見をちょっと拝聴したいと思います。それを踏まえて、最終的な総合判断は私が行います。私が責任を持って行いますので、私は今までの議論の流れからすると、レクチャー受けるときは――やっぱりエリアに分けんほうがよかねと、それはそういう理由もあるんですよ。要するに遅配が行われるっていう可能性、広くなればなるほど行われると可能性があったりとかね、その配達地点が点在することになりますので、その分だけ、その御利用者の方々のニーズを酌み取れないっていうことも可能性としてはあります。ただし、議員がおっしゃったように、自由に選べるということと、これね、あることによって多分僕、競争が起きると思うんですよ、競争が。1つのエリアで1つっていうことだと、他のエリアは例えば、B社だっというふうにすると、ここに競争が起きないんですよ。ですので、こういうふうなエリア全体で複数あるっていうことは、健全な競争を生む一つの素地になると思いますので、考え方が変わりました。ですので、そういう方向で、自由に選べる方向で、ちょっと精査を進め

ていきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

契約があるというふうなことでありますけれども、これが契約が 3 年ですかね、3 年ぐらいを期間として契約をされておるといふふうに思うんですね。この 3 年をこう待っとくわけにはいかんですよね、こういった高齢者の皆さんが使われている。

まあそこです、やはりこの今の流れとしては、利用者、行政、事業者があつて、利用者の皆さんがお弁当代を 400 円負担をされておりますよね。そして行政が事業者に対して、それプラス委託料というふうなことで、見守りを含めた委託をされております。これが配食サービスであつて、その部分をサービスとしてですね、事業者は利用者提供をしているというふうな、こう流れになっているわけですね。まあその中で、さまざまな要望が先ほどからのようにあるわけでありまして、3 年間という時間を待っておるわけにはいきませんので、ぜひこの利用者ですね、すべての方がそうではないんですよ。強くやっぱり要望される方もいらっしゃると思えますので、そういったことについてはですね、やはり事業者と相談をしていただいて、利用者のニーズにこたえられるようにするべきだといふふうに思いますが、スピードは最大の付加価値、樋渡市政、いかがでしょうか。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

市長、樋渡市長

〔12 番「要望にこたえてください」〕

○樋渡市長〔登壇〕

要望にこたえるようにしたいと思います。ただし先ほど言ったように、これは契約って結構やっぱ重いんですよ。ですので、その契約の見直しについてもね、まず事業者の意見を聞いて、利用者の意見を聞いて、そこでやっていきたいと思えます。いずれにしても、これ 3 年待ってっていうのは、私も全然考えてませんので、即座に動きたいと、このように思いません。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしく願いいたします。

それではですね、次に、し尿処理能力の整備充実ということで、質問をさせていただきたいと思えます。このし尿処理についてはですね、武雄の衛生処理センターのほうで現在処理をされておるわけでありまして、ここで受け入れをして一次処理、二次処理、高度処理ということで、きれいな水にして放流がなされているところでありますけれども、ここので

すね、処理場の今の近年の状態を見ると、フル稼働状態にあるんですね。これ、数字ちょっといただきましたけども、その数字を見てみますとですね、これ1日当たりの収集量を月単位であらわしておりますけれども、この施設の処理能力が、1日当たり98。この黄色い線のところでありましてけれども、例えば、4月でいきますと115k1というふうなことで、約17%オーバーしている。まあこの1年間見た中ではですね、1月が若干——能力を下回っておりますけれども、これは年末年始に調整されたことによって、反動で下がってるんですね。それを除けば、すべての月が毎日、収集量をオーバーしているような状況にあるわけでありましてけれども、まさにこの施設が飽和状態にあると。トラブルが起きたときには、すぐにストップしてしまうような状況に今あるというふうに思いますけども、この点について課題、どのように認識をされているか、まずはお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

森まちづくり部長

**○森まちづくり部長〔登壇〕**

し尿処理センターの1日の処理能力は、議員おっしゃられたとおり98k1というふうなことで、現在約110%の搬入量で、推移をしているところでもあります。そういう中で、貯留槽の調整を行いながら日夜調整をかけながらですね、行っているところでもありますけれども、搬入量が多くなれば、今後処理が厳しくなるというふうなことで、事業者に対して、搬入制限をかけるということは、市民に迷惑をかけるというようなことにつながるかというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

これもですね、建設委員会のほうで何度か議論に議論を重ねたところでもあります。このし尿の処理センターの近くにですね、公共下水道の処理施設、武雄浄化センターがこうあるんですね。こちらのほうの今現在のですね、処理の稼働率を見ると、約50%なんですね。まあそういう状況の中で、ここのですね、し尿処理場の一次処理したものを公共下水道に持って行って、ここで最終処理をします。こうすることによってですね、能力オーバーの部分が解消するんじゃないかという提案が建設委員会でもあったわけでもあります。ちょうど1年ぐらい前の話でありますけれども、まあここをパイプラインでつなぐというふうなことについては、やはり省庁の壁がある。法の壁があって、なかなかここをつなぐことができないという答弁で、まあそのときはこう終わっていたんですね。その後1年かけて、恐らく協議されているというふうに思いますけども、この点について、どのように今なってるのか、お伺いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

建設委員会で議論されたというその後ですね、現在の処理能力と今後の搬入量の推移、あるいは、運転費や施設の更新費、それから維持管理のコストの削減、下水道施設への接続が法的に可能であるかなどを一応検討してまいりました。その中で、コストの縮減が図れる、あるいは整備局や佐賀県と協議した結果ですね、接続は可能であるというふうな回答を得ているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

接続が可能であるということですね。それからコスト縮減にもつながるということでありますけども、具体的にコスト縮減、どういったコスト縮減が出てくるのかですね、この点、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

（モニター使用）コスト縮減でありますけれども、現状、上のほうが現状で推移した場合と、それから下のほうが下水道に接続した場合ということで、比較をしております。単年度で比較するよりも、25年から45年の21年間で比較をしたところであります。

まず、維持管理費ですけれども、今現在、これを現行で処理、現行でいきますと、26億円かかるのが、業務委託料、光熱費等の縮減が図られて、約23億円というふうなことになります。それから――修繕費、これは先ほどありましたように、一次処理で二次処理を行わないということで、回転平膜の交換が不要になりますし、二次処理の高度処理の休止ということで、14億円かかっているのが9億円ということで、5億円の削減につながります。

それから施設更新費。これは施設が老朽化によって、施設を新たにつくる必要が出てくるときがありますので、その費用がですね、先ほど言いましたように、二次処理、高度処理施設が不要になりますので、約半減の40億円が20億円に削減というふうなことになります。ただ、新たにですね、上下水道の使用料、下水道を使うわけですから、その分の使用料、あるいは上水道の使用料というふうなことが新たに出てきまして、3億円ほどかかります。これを1年間で計算しますと、1億4,000万円の縮減というふうなことになります。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

つけとってよかよ。今、説明がございましたけども、21年間で83億から55億ということ



ですから28億円。年間にして、1億4,000万の効果があるという、もうすばらしい効果がこう出るんですね。このことについて、接続が可能というふうなことでありますけども、これはやはりまちづくり部ですね、下水道課、あるいは環境課、こういったところが中心にこの1年間かけてやってこられた成果だというふうに思うんですね。私はすばらしい削減効果を上げられたなというふうに思っておりますので、ぜひここについてはですね、早急に接続をかけて、この効果を生みだしていただきたいというふうに思いますけども、市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

これは先の議会で黒岩幸生議員から御指摘があつて、もうすでにこの状態っていうのはあつぷあつぷだから、これ何とかしなきゃだめだろうという厳しい御指摘をいただいて、これを踏まえて私どもは、内々庁内でプロジェクトチームをつくりました。松尾定技監を中心として、先ほど御指摘がありました、下水道課、環境課。そしてここで大きく役割を果たしたのは、し尿処理の実際の現場の職員さんたちなんですよ。ですので、この方々と、あとはその全体の調整をやった企画課が本当にこう真摯に、御指摘を踏まえて、自分たちでできることは何だろうかということで、この――まあ1年でいうと、1億以上の削減になるんですよ。またこれが実は財源になるんですよ。さっきの冷房のね、財源になるとかなりますので、これはもう少なくとも私に言わせれば、病院問題、図書館問題に並ぶ大ヒットだと思っておりますので、これは御指摘をいただいた黒岩幸生議員とともに、うちの職員に対して、やっぱこれはねぎらいの言葉をね、ぜひかけてあげたいと思っておりますし、善は急げ、あさってからつながぎます。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

本当にですね、28億円の財源をここで浮かせることができるといったことは、ほんとにイノベーション的なものだというふうに思いますのでね、ここについては、ねぎらいの言葉だけじゃなくて、こういう努力をされた皆さんに対してはね、やはり高く評価をして査定をしていただきたいと、最上限の査定をするべきだというふうに思いますので、よろしく願いをしておきたいと思ひます。

それでは次にですね、公文書の電子化についての質問でございます。この写真はですね、宝塚市役所、これは7月にですね、火炎瓶の投下による放火事件があつて、公文書が焼失したと。それからまた2年、ちょうどきょうで2年半になりますけれども、東日本大震災。こ

れですね、市役所が流されて、文書が流されたといったことがあったわけでありまして、  
も、こういった公文書についてはですね、やはり市民の皆さんの大切な財産なんですね。こ  
れを守っていく必要があるということで、この議会でもたびたびこの電子化の話がなされて  
いるところでありまして、現在このペーパーでの管理をされているというふうなこと  
で、これをPDFに置きかえてですね、別の場所、データセンター等で保管をするという  
ことで、公文書の保全を図るべきだということであったわけでありまして、この武雄  
市役所の今の動きに対して、非常に動きが遅いように思いますが、どのような形で進め  
られていられるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

公文書のデータ化につきましては、議員御指摘のように、本会議、あるいはIT特別委員  
会においてもですね、たびたび指摘を受けてきています。取り組みの遅れについては御指摘  
のとおりでありまして、申し訳ございません。

今の時点での取り組み状況ということでございます。現在の状況については、第1段階と  
しまして、平成24年度の文書を対象としまして、政策部とつながる部、この2つの部です  
ね、対象文書の読み取り作業、PDF化をするための読み取り作業に取りかかっております。  
この両部の作業については、30日ぐらいかかるだろうというふうに見込んでおります。この  
試行を見ながらですね、第1段階の試行を見ながら、各部への取り組みということに入って  
いきたいというふうに思っておりますが、いくつかの課題が、多分試行段階で出てくると思  
います。こういうことを加味しながら、早急に進めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

これはですね、住民手続きの簡素化、効率化というふうなことで、約2年ほど前、パネル  
で説明をさせていただきましたけども、転入手続きを事例にとってですね、市民課に来られ  
た方が、各部署を行ったり来たりしなければならないというふうなことで、システムにこれ  
を置きかえましょうということで、転入手続きを書いて、基本事項をパソコンに入力すれば、  
必要なその方の申請書類が出て、担当課で処理をするということで、こういったシステム化  
をしましょうというふうなことで、これをするためにはですね、今の業務を洗い出してマニ  
ュアル化する必要がありますよというふうなことで、申し上げてきました。これについて  
は、この議会で黒岩幸生IT特別委員長さんが何度となく、このことを細かくですね、この  
一般質問の中で取り上げられた。なかなかこう、進んで見えないんですよ。IT委員会でも、  
なかなかそれがこう先に進んでいるのが見えない。そういう状況に今あるわけでありま

す。この行政ナビ、ワンストップサービスといった部分、今後、やはりこの業務の洗い出しを早くしてですね、洗い出しができたなら、それをマニュアルに持っていく。そして、最後にそれをシステムにのっけるというふうな作業になってくるかというふうに思います。

そこでこの業務の洗い出しと、マニュアルの作成については、やはり職員さんが力仕事でこれをしていく必要があるんですね。それができ上がれば、システムに置きかえる。この部分は庁内だけではできませんので、外部の指導、あるいは外部の委託、こういったものを仰ぎながらやっていくことが必要になります。これを進めるためにはね、やはりこの行政ナビのプロジェクトチームを早く結成をして、リーダーを決めてですね、そこに必要な予算をつけてやって進めないと、なかなかこう前に進まない今の状況にあります。ぜひ、こういったプロジェクトチームを早期に立ち上げて、そして予算づけをする、このことをぜひすべきだというふうに思いますけども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

宮下つながる部長

**○宮下つながる部長〔登壇〕**

これまで、来庁者の手続き関係につきましてはですね、可能な限り簡素化して、市民の皆さまの利便性を高めるということで、市議会におきましても、たびたび御指摘をいただいております。現在ですね、庁舎のあり方を検討する庁内グループというところで、窓口のあり方について議論を行っているところではございますが、御指摘のとおり、これとは別途に窓口の手続きの見える化、いわゆるリスト化、あるいはマニュアルの作成、こういったことを踏まえつつ、システム化の研究をします。こういったプロジェクトチームを早急に立ち上げて、進めていきたいというふうに考えております。

〔12番「予算は、予算づけは」〕

予算につきましてもですね、進捗状況を踏まえながら、議会にお諮りをして、お願いをしていきたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これ、以前から私申し上げているとおりね、今度新しい庁舎になったときには、もうたらい回しをもうやめようということを書いて、もうかなりこれは大胆に申し上げてはいますが、もう窓口は廃止。実際、お越しになった方々が、例えば、いろんなカードでもなんでもいいんですけども、大体名前と年齢を書いたら——あと例えば、さっきのあれですよ。転入届とかっていう希望したら、もう大体パターン化できるんですよ。それが今どうなっているかっていうと、これは例に出しましたけど、ある御自身のお父さんが亡くなったときにね、いろんなどこにたらい回し、これ武雄市の例じゃありませんよ。たらい回しされて、あ

げくの果ては、何で住民票を持ってこないんだっていうのを、ほかの課から怒られたとか言  
って、もう二度とこの市役所来るもんかと、もう市長には入れんと。あ、武雄市じゃありま  
せんよ。ですので、そういったことにやっぱりかねないですよ。ですのであくまでも、  
そういう市民の皆さんたちを大切にするという観点からすると、窓口がたくさんあるという  
ことについてはね、僕はもうそれは時代遅れだと思っています。ですので、そういう中期的  
なことをするためにも、この洗い出しというのは絶対必要で、これどこまで共通できるかっ  
ているのは、これ書かれているとおり、職員にしかわかんないですよ。私はわかりません。  
あるいは外部の皆さんはもっとわかりません。ですので、職員同士が突合をさせて、これは  
共通化できると。これは共通化できなかつたら、ここはシステムの方がいるよねという議論  
をね、ぜひしてほしいというふうに私自身も思ってます。今まで遅れているのは、すべて私  
の指導力不足です。これはもう市民の皆さんたちに私からお詫びしたいと思います。職員に  
はなんの責任もありません。そういう意味で私自身も、これIT特別委員会なり、議会から  
さまざまな御指摘をいただいている。これはとりもなおさず、市民の利便性の向上、市民価  
値の向上という観点からおっしゃっていることを改めて真摯に踏まえて、私自身もこの議論  
にはちゃんと参加をしたいと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

先ほどですね、転入届の話を出しましたけれども、なんでもかんでもね、システムに置き  
かえなさいっていうことを言うてるわけじゃないんですよ。システムでできるものはシス  
テムに置きかえる。そしてどうしても、人間経由でですね、手でやらなきゃいけない部分あ  
りますので。そこはそこで残して、きっちり区分けをしてですね、そして業務効率を上げて  
いく、生産性を上げていく。そして浮いた時間については、また新たな住民サービスに振り  
向けていく。これがやっぱり必要だというふうに思うんですね。今度庁舎の改築もあります  
ので、それに向かってですね、このシステムも立ち上がっていくように、ぜひ全力でやって  
いただきたいというふうに思っております。

それでは以上で終わります。